



Rotary International

LEAD THE WAY

率先しよう

2006～2007年度

国際ロータリーテーマ：ウィリアム ボイド会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

東京赤坂ロータリークラブ

No.925 / 2006.9.29

例会 / 毎週金曜日12:30

例会場 / 東京全日空ホテル Tel 03-3505-1111

事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

http://www.k5.dion.ne.jp/~ akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「これまでも、これからも 皆で築こう赤坂ロータリー」

2006～2007年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ／荒木昭文会長

●本日の例会／2006年9月29日第947回例会

◎卓話 『指揮官としての思い出』

NEC顧問（前航空幕僚長） 津曲義光 氏

（紹介者 土屋 東一君）

— ●先週報告／2006年9月22日第946回例会 —

会長報告：①本日は第2750地区千代田グループ・ガバナー補佐をお迎えして、第3回クラブ協議会を開催いたします。ご来賓のお二人をご紹介します。

千代田グループ・ガバナー補佐

秋山 庸一氏（東京芝 RC）

千代田グループ・グループ幹事

大徳 宏教氏（東京芝 RC）

②海外のアナハイムヒルズRCからのお客様、CABANA氏とのバナー交換



慶事披露：誕生日祝 / 田辺賢三君（9月22日）

出席報告：会員56名 / 出席37名・欠席19名（出席規定免除者5名）

ご来賓 / 2名

ビジター / CABANA（アナハイムヒルズRC）、
椎津忠三（東京中央RC）、藤原有三（東京南RC）、松田力（東京世田谷南RC）計4名（順不同・敬称略）

ゲスト / 1名

千代田グループ秋山ガバナー補佐公式訪問

第3回クラブ協議会

テーマ「会員増強について」

日 時 2006年9月22日（金）

例会後 13:10～14:40

会 場 東京全日空ホテル B1 プリズム

来 賓 千代田グループ・ガバナー補佐 秋山 昶氏

千代田グループ・グループ幹事 大徳宏教氏

出席者 荒木、馬場、藤井、福島、橋本、早川、飯島、入沢、石井、岩上、松永、村山、西澤（正）、西澤（民）、大日方、尾上、尾関、小原、柴本、椎名、清水、庄司、武下、鶴間、渡部、山川、吉田（用）、吉岡

（28名 敬称略）

司 会 石井幹事

1. 会長挨拶

会長 荒木昭文

今年度は、クラブ創立20周年の節目に当たります。

創立時スポンサークラブであります東京南RCから田辺会員以下7名の会員移籍をはじめ物心両面のご協力をいただき、25名の創立会員で東京赤坂ロータリークラブ（旧名称 東京新南）は発足いたしました。この20年間のクラブ会員数の推移は1997～1998年度71名をピークに、その後減少し続け、前年度初めには52名まで落ち込みました。

しかし、皆様ご承知の通り前年度は会員増強活動をクラブ活動計画の最重要課題に位置づけ、入会会員7名・退会会員4名・純増3名という素晴らしい結果を残すことができました。

会員増強とは、クラブにとって会員の基盤を維持し増強することがクラブのさらなる活性化の原動力となること、長期的なクラブの能力、即ち地域社会や世界で奉仕活動をより強化出来る源泉となることです。

今年度、RI年度方針に於いてRI会長賞に会員増強を5つの奉仕活動分野の1つに設定しております。また、地区年度方針では、地区重点目標の1つとして、会員増強を強調事項とし、「各クラブで純増1名を目標とする」としております。

さて、我クラブは本年度よりCLPを採用しクラブ運営をしております。5つの「常設委員会」の1つである「会員増強委員会」の委員長を理事とさせていただき、昨年度に引き続いてクラブの最重要課題といたしました。



是非、昨年度の会員増強活動の熱気をこの20周年の年度に更に拡大し、クラブテーマ「これまでも、これからも皆で築こう赤坂ロータリー」のごとく、全会員1

（裏面へ続く）



9月22日 / 9件19,000円 / 本年度累計305,000円
多額のご寄付をありがとうございました。（敬称略）

荒木昭文 / 秋山ガバナー補佐様、大徳グループ幹事様、公式訪問有り難うございます。石井謙次 / 秋山ガバナー補佐、本日は宜しく申し上げます。馬場一廣 / 本日は秋山さん、大徳さん、よろしく申し上げます。吉田用親 / 秋山ガバナー補佐と大徳グループ幹事の来席を歓迎して。松永秀和 / 事務所を六本木から南青山に移しました。落ち着いた環境ですので仕事が進むといいのですが・・・飯島則之 / 松尾さん、忘れ物を届けてくれてありがとう。西澤民夫 / 村山さんご苦労さまです。庄司泰典 / 村山さんニコニコご苦労様です。村山公士 / 本日は多数のニコニコありがとうございました。

人1人が今年度会員増強目標であります新入会員10名・純増5名の目標達成に、ご努力を強くお願い致します。

また、CLPはクラブの運営管理をより長期目標で取り組むように推奨されております。会員増強という課題を単年度だけにとらわれず、長期的な目標設定が我がクラブにおきましても必要であります。

最後に、会員増強活動は、3つの部分から成り立っています。すなわち新会員の勧誘、現会員の退会防止、そして新クラブの結成(拡大)です。

本日の第3回クラブ協議会であります「会員増強について」、皆様には活発なご協議をいただき、有意義なものとなることを期待しております。

2. 2006-2007年度会員増強 今年の計画 清水増強委員長

- (1)基本的には地区の重点目標・方針に沿って行動するが、純増1名という目標は純増5名とチャレンジアブルな数字とする。退会防止にも努めるが自然減もあるので新規会員増加10名を目標とする。
- (2)昨年度の素晴らしい実績をふまえ、昨年の計画を継承しながら、昨年度入会者に会員増強委員会に参加してもらい、仲間の勧誘に働きかけてもらう。
昨年度からの継続計画としては下記がある。
 - ・ JCのメンバーに対するアプローチ
 - ・ 紹介者の例会参加費のクラブ負担
 - ・ 港区(赤坂地区)の大使館等の要人へのアプローチ
- (3)全員が会員増強の重要性を認識して会員増強の努力をする。結果は別として候補者にアプローチすることは全員してもらう。この為にも全員参加のチームを結成して状況を小さい単位で確認しあう。
- (4)本年より『東京新南RC』から『東京赤坂RC』に名称変更し、なじみのある『赤坂』の名前を前面にだして勧誘に勤める。当クラブ名称変更とCLP実施による『クラブ案内』パンフレットの更新・作成を急いでいる。
- (5)クラブ創立20周年を記念して①赤坂見付に時計塔を寄贈、②サントリーホールでチャリティーコンサート実施を行うが、このイベントを有効に使いロータリークラブの知名度・認知度を上げ、併せて新規会員の勧誘に利用する。また出席率の低い会員にもこの各種イベントを連絡し協力をよびかける。
- (6)昨年度入会のメンバーには、従来から当クラブにある『ゆうもあ会』(入会3年までの人の親睦会)に加えて、独自に『同期会』的親睦の会を発足してもらい仲間の親睦を図ってもらっている。
- (7)退会防止のためには、高年齢で会社の一線を引き、併せてロータリー暦の長い会員に年会費減免の方策を理事会として検討中。

3. 昨年度の取り組み 2005-2006年度 大日方増強委員長

前年度に会員増強委員長をしましたが、それまでの2年間、入会者が少ないという苦しい年度が続いていました。それは、新会員の推薦は会長や幹事、会員増強委員長にまかせておけばいい、一会員が積極的に取り組むテーマではないという、会員増強を他人まかせにする気持が多く、多くの会員にあり、会員増強が一人ひとりのテーマになっていないからだと思いました。それで、会員の意識を変えたいと考え、全会員にアクションを起こしていただき、年間に30名の新会員候補者を推薦するという目標を立てました。その目標を繰り返し訴えました。理事役員が一人ずつ推薦する、10人の会員増強委員がそれぞれ一人推薦する、5人を1チームにして10チーム作り、1チームで一人推薦する、それで30人の目標は達成できるはずでした。

しかし、なかなか行動を起こしていただけない。新会員の推薦を自分の問題として取り組んでいただくところまでいきませんでした。下半期になって意識が変わってきたと思いましたが終わってみれば、推薦 9名、入会 7名という不本意な結果でした。

会員増強というのは、理屈を言ったり、思っているだけでは駄目で、まず行動することです。友人や知人に声をかけるというアクションを起こさなければ始まらない。

今年度は大変な行動力を持っておられる清水さんが引き継いでくれましたので期待しています。私も、及ばずながらできるだけ清水委員長を支援したいと思っています。

4. こうして推薦

西澤民夫会員

私は藤後さんに勧められてRCに入会しました。そろそろ忙しい仕事を一段落させて落ち着こうと思っていたところでしたので、喜んで入会させていただきました。その背景には私の父が95歳までRCに入っていて、97歳の今でもRCの若い仲間が尋ねてきてくれて、楽しく話をしているのを見ていて、RCというのは「いいなあ」と実感していたということもあります。その上、加山雄三さんをお招きした昨年の家族忘年会において、3人の副委員長をはじめ皆さんが慣れない私を助けてくださり、一体感を心の底から味わうことができ、こんな素晴らしい経験をできるだけ多くの人に分けてあげたいとも思いました。

私はすべての人がRCの入会資格者であると考えています。もちろん、①忙しくて時間的に余裕がない、②お金の余裕がない、③心情的に受け付けられない(ある人の子供のときの経験で、父親の会社が倒産しそうなときでも、仲間には言えずRCの仕事を優先してやらなければならないというのを見ていた等)、④矯正できない欠陥を持っている等の人は無理であることは言うまでもありませんが、100年前にシカゴでハリスさんが、RCを作ったときの精神を思い起こせば、すべての人は何かに属したいという強い願望があることは明白です。最近ニューヨークで流行っているものに社交クラブコーディネーター業があります。ほとんどの人は常に他の人と接触を保っていたいという願望が強くあるといわれていますが、こういうことから裏付けられます。人が属したいというクラブというのは形式主義的過ぎであってはならない、のびのび、生き生きと活動しているということが重要で、それが人をひきつける魅力の源泉となると思います。社会奉仕活動は重要ですが、まず、自分自身がしっかりしてから、For the team! 精神で仲間を助け、その次に社会奉仕活動がくるのではないかと、私は思っています。最後に、私自身の今年の新会員推薦方針としては、①伸び盛りのベンチャー企業の社長(次世代のRCの基盤人材)、②そろそろ仕事の引退を考えている時間とお金に余裕のある団塊の世代(社会奉仕活動要員)を中心にリクルートしていこうと考えています。

～クラブ協議会報告は次週号に続きます～

●次回予告／2006年10月5日(木)第948回例会

第2750地区谷島昶ガバナー公式訪問

◎ ガバナー・会長・副会長・幹事懇談会

(11:00～12:00 東京會館12F コレニアルーム)

◎ 東京南RC・東京赤坂RC合同例会

(12:30～13:30 東京會館12F ロイヤルルーム)

卓話予定 『ガバナー公式訪問にちなんで』

第2750地区ガバナー 谷島 昶 氏 (東京羽田RC)

※10月6日(金)の例会は10月5日(木)合同例会に振替えました。